6. NCPR チームの活動報告と今後の課題

加古川西市民病院　看護部　NICU　松村　好野　山本　由起子
看護部　GCU　大磯　美幸
看護部　2-3 病棟　北野　由起恵　北　祐佳
小児科　米谷　昌彦　森沢　猛
産婦人科　房　正規
臨床工学室　濱谷　麻衣

【はじめに】

出生により胎児は新生児として胎外生活に適応した呼吸循環動態に切り替わらなければならない。しかし、この移行が順調に進行しない事例は、全出産の約 10%にみられ、さらに全出生児の 1%が救命のために本格的な蘇生手段を必要とし、適切な処置を受けなければ、死亡するか、重篤な障害を残すとされている。そこで、日本版救急蘇生ガイドラインに基づいた新生児蘇生法（以下:NCPR）講習会がある。アメリカ心臓協会 2000 心肺蘇生国際ガイドラインでは、「すべての分娩に新生児の蘇生を開始することのできる要員が少なくともひとり、専任で立ち会うべきであり、さらに気管挿管と薬剤投与を含む全ての蘇生の技術を備えているものが、いつでも手助けできるようにしておくべき」と推奨している。そのため NCPR チームでは定期的に NCPR 講習会を開催し、医療者のスキルアップの支援を行なっている。これまでの NCPR チームの活動報告と共に今後の課題について述べる。

【NCPR チームについて】

1.　NCPR 講習会開催の動機

当院は、地域周産期母子医療センターとして、産科部門は切迫早産や妊娠中毒症などの救急医療入院、ハイリスク妊娠の管理や分娩を中心とした周産期医療を行い、新生児部門では圏域唯一の NICU を運営し、地域の周産期の中核病院として新生児救急車は年間約 200 件の救急症例に対応している。NICU・GCU、産科病棟において新生児医療に携わる医療者は蘇生技術を習得し、適切なチーム医療を行わなければならない。しかし、新生児蘇生における個々の技術のばらつきや適切なチーム医療が展開できない事例が発生していた。また、経験年数が浅い医療者においては、蘇生技術を習得できないまま実務を行っている現状もあり、院内にスキルアップのための研修システムがないという問題があった。そこで、平成 22 年に小児科医師の呼び掛けで第 1 回 NCPR 講習会を開催した。

2.　NCPR チームの設置と活動内容

定期的に NCPR 講習会を開催するため、平成 24 年に NCPR チームを設置した。現在は小児科医師 2 名、産婦人科医師 1 名、看護師・助産師 5 名、臨床工学士 1 名で構成し、「未熟児・新生児の出生時の蘇生に迅速かつ的確に対応するための新生児蘇生法を円滑かつ効果的に実施できる職員等を育成する」ことを目的とし、NCPR 講習会の開催、会議の実施をしている。

3.　NCPR 講習会開催の現状

現在、院内には新生児蘇生のインストラクターを 5 名保有している。平成 26 年 9 月現在で、気管挿管や薬物投与などの高度な蘇生法を学ぶ「専門」A コースは 7 回開催し、基本的な蘇生法を学ぶ「一次」B コースは平成 25 年から開催し、2 回開催した。

開催当初は院内の医療者のみを対象としていた。しかし、NCPR 講習会の受講者も増え、回数を重ね軌道に乗ってきたこともあり、地域の周産期医療施設においてもスキルアップした医療者が分娩に立ち会うことで救命率の向上や地域における新生児の急性期医療の充実を図ることを目指し、平成 25 年から院外からの受講者も募集している。参加者は延べ 193 名で、院外からは 69 名もの参加者を得ている（図 1)。また職種は看護師・助産師が 150 名と大半を占めているが、小児科・産婦人科医師 37 名、臨床工学技士 6 名と幅広くの職種が参加している（図 2)。

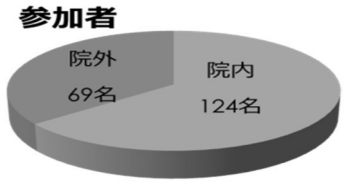

図 1：NCPR 講習会参加者内訳

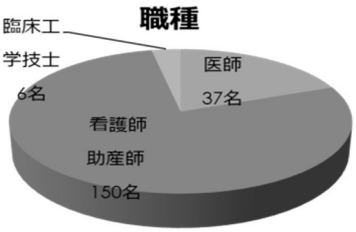

図 2：NCPR 講習会の参加者職種

4.　当院の NCPR 講習会の特徴

当院の NCPR 講習会では、実技の時間を長めに設定している。そうすることで、「わからないことがその時に聞ける」「何回も実施できて確認が十分にできた」という意見が聞かれている。またグループ編成を他職種混合、他施設混合とし、有意義なディスカッションができることを期待している。

【NCPR 活動の成果】

当院の NCPR 講習会に参加した地域の周産期医療に従事しているスタッフを対象に、現場で実践する中での現状や問題点についてアンケート調査を実施し、結果は以下の通りであった。

1. NCPR 講習会参加後、具体的に実践の中で活かせたこと
- 蘇生の際、予測して準備でき、言われてから準備することや余分な行動をしなくなった
- 受講後すぐに 24 週の早産に立ち会うことになり、夜間だったこともあって人数が少ない中、NCPR の知識が役立ち落ち着いて臨めた
- ルーチンケアに自信を持つことができた
- 施設に戻り、シナリオ実習のような実技を勉強会でも行った
- 知識を再確認することができ、出産時の蘇生への対応がスムーズになった
- 胎児心拍モニタリングで状態の悪いベビーが出生する可能性があった時に、自信を持って対応することができた

2. NCPR 講習会参加後、現場で NCPR を実践していく上で困っていることや問題点など
- 現場で実践する症例があまりない
- 知識や技術は活用しないとすぐに減少するので、繰り返し学習する機会が必要
- 現場の医師・助産師・看護師に NCPR についての知識・技術があまりない

3. 今後、施設のスタッフにも NCPR 講習会の参加を勧めたいか

「とても勧めたい」75%、「勧めたい」25%、「勧めたくない」0%
- 知識・技術を共有することで次の場面を想定し準備や行動ができる
- 院内で実践する機会はあまりないが、知識として知っておくととてもいい事なので
- スタッフ全員が NCPR 講習会に参加することにより、必要な知識や技術が身に付くことで自信に繋がると思うため
- いつ状態が悪い新生児が産まれてもスタッフが対応できると良い
- 受講後、状態の悪い新生児にも落ち着いて対応できるようになったと思うので
- 周産期の現場では絶対必要であり、最低限必要な知識・技術だと思うから
- 実践する機会があまりないが、NCPR が必要になる場面があり、焦らないですむように

【今後の課題】

今後も定期的に NCPR 講習会を開催し、看護師・助産師、医師等チームでの連携を図り、安全で質の高い医療を提供していきたい。また、NCPR 講習会の受講で終了するのではなく、継続的に職場全体での蘇生技術の向上とチーム医療を向上させる役割を担ってもら

えるよう支援し、インストラクターの育成へと繋げていきたい。

地域周産期母子医療センターとして地域の赤ちゃんを守っていくことが私たちの使命だと考え、院外の周産期施設のスタッフの受講者をさらに増やすことで、地域における新生児医療の底上げを図っていきたい。

【文献】

1) 田村正徳：日本版救急蘇生ガイドライン 2010 に基づく新生児蘇生法テキスト，株式会社メジカルビュー社（東京），12，2011.

2) The American Heart Association in Collaboration with the International Liaison Committee on Resuscitation：Part 11. Neonatal resuscitation. Guidelines 2000 for cardiopulmonary resuscitation and emergency cardiovascular care. Circulation, 102 (suppl)：1343-1357, 2000.